

# 自然再生の担い手たち インタビュー

八幡湿原

## 地域の自然を学ぶことで 子供たちが成長する



白川勝信氏

(芸北高原の自然館学芸員)

湿原再生のため、調査・研究などに加え、環境学習にも力を入れています。子供たちは、自然の中で希少種のことや、湿原や草原の成り立ちなどを学ぶことで地域の自然の素晴らしさを知り、これをきっかけに動植物についての調査や創作活動にも展開しています。その成長ぶりは親も驚くほど。子供たちを通じて、地域の人々が八幡湿原の自然の大切さを再認識することにもつながっています。今後も学校などと連携しながら自然再生の輪を広げ、工事後の管理など次世代の担い手が育っていくことを期待しています。

自然再生事業は、NPO や地域住民をはじめとして、多様な主体の参画と創意により実施する事業です。

いま、全国各地に自然再生に取り組む新たな担い手たちが登場しています。

阿蘇

## 安全安心な食材供給が 私たちの務め



鎌倉直美氏

(阿蘇草原再生協議会構成員)

牛が好き、阿蘇が好きで、畜産を仕事にすることを決めました。今は毎日、北外輪山上にある牧場で繁殖牛や子牛の世話をしていますが、うれしいのは子牛が生まれ牧場で元気に育っていくこと。消費者に安全安心な食材を供給するには、健康な牛が育つもともになる健康な草原が必要です。高齢化や後継者不足で難しくなっている草原の利用や維持管理を続けていくことが草原再生と考え、若い畜産仲間と一緒に、安心して働ける環境づくりや、広大な草原を活かした畜産業を盛り上げるための取り組みをしていきたいと思っています。

中海

## 『大好き中海！！』 ファンを増やす



小倉加代子

(認定 NPO 自然再生センター)

「大好き中海」「中海・宍道湖の幸でお料理することが得意なの」「中海の赤貝（サルボウガイ）じゃなきゃ!」「中海でもっと遊びたい」と言いたくなるような中海にするため、自然再生事業はもちろん中海に触れる環境学習も大切にしています。それぞれの地域に当たり前にある自然ですが、人々が手を加え続ける事によって維持、再生している里海や里山があります。中海も意宇の入海と呼ばれた里海です。関わることによって、私たちに有用な恩恵を与えてくれる大切な場所です。これからも、中海の「生態系サービス」を皆さんと一緒に五感で感じる事業を展開していきたいと思っています。

竜串

## 海の「花咲か爺さん」に なりたい



竹葉秀三氏

(竜串観光汽船代表取締役)

子供の頃から海とともに暮らし、私を育ててくれたのは、サンゴや魚たちが豊富な竜串の海といってもよいほどです。海の汚染やサンゴの衰退を目の当たりにして、ダイバー仲間とともに海の清掃やオニヒトデの駆除、サンゴの移植などの活動をしてきました。一生涯それを継続し、かつてのような美しい海を再生させることが私の使命だと思っています。

最近では地元小学校と協力し、地元にも海を知らない子供たちに、グラスボートを使って海中公園を体験させ、竜串の海の楽しさや素晴らしさを伝えています。

釧路湿原

## 自然再生を市民の 日常生活に根づかせたい



新庄久志氏

(釧路国際ウェットランドセンター)

釧路湿原の自然再生では、250,000ha に及ぶ流域全体の環境負荷を減らすことが必要です。それには市民自らが今のライフスタイルを見直し、変えていくことが求められます。そのステップとして、市民が既にやっていることの中に、自然再生に繋がることがある、ということに気付くことが重要だと思います。このため、数多くの活動を掘り起こし、互いに結びついていくような取り組みを進めていますが、さらに大きな社会の動きに発展していくよう願っています。そして市民グループが事業推進や管理の担い手になり、自然再生が市民の日常生活にまで定着していくのが私の夢です。